



「オススメ」
**教員から
 学生への
 推薦図書**
 Recommend
 books

学生みなさんに読んでほしい一冊を、大学の蔵書の中から紹介していただきました。学生時代に会った本や、息抜きに読める本などさまざま。ぜひ図書館で探してみてくださいはいかがでしょうか。

01

**集団的自衛権と
 安全保障**



豊下 栢彦、古関 彰一 (著)
 (岩波書店)2014

名図文庫 080:1952:d1491
 豊図文庫 319.8:To92

2015年夏、集団的自衛権を容認する膨大な軍事法案のため国会内外が熱かった。憲法学者の圧倒的多数や多数の弁護士が「違憲」として反対を表明。一方専門家ではない若者・主婦等の一般市民も、多数国会を埋め尽くし全国各地でデモ・集会を催した。法案が形式的には通った今、あらためて「集団的自衛権」とは何かを冷静に知っておきたい。著者の豊下はこの問題の第一人者たる国際政治学者、古関は憲法制定過程や安全保障に詳しい憲法学者である。分野の異なる二人が執筆した本書には、改憲問題も含め、現在問題となっているほとんどの論点が論じられている。安倍首相が集団的自衛権必要と説く理由を、豊下は現実的・専門的な見地から「人を欺くトリックそのもの」(Pii)と批判する。18歳選挙権が成立した今、大学生はもはや観客ではない。この国の行く末に対し意思を表明すべき責任を有する「主権者」なのである。

名古屋校舎

長峯 信彦
 法学部

02

天才の心理学



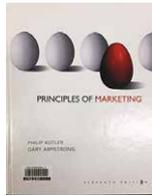
E.クレッチャマー (著)
 (岩波文庫)1982

名図文庫 141.18:Kr4

E.クレッチャマー『天才の心理学』(岩波文庫1982年)は、「天才と狂気」という通俗的話題から説き起こし、天才性と精神障害との関係について論じる際、人間の性格を根源的に規定する要因として、分裂気質・癲癇気質・躁鬱気質を析出し、普通の人間は以上の三類型の中間のいずれかに分布するとみなしている。同書が明らかにした意外な事実は、人間の正常な気質を直接定義することはできず、異常気質からのずれとしてしか認識できないという洞察である。すなわち、精神分裂病・癲癇病・躁鬱病に分類されるような異常気質こそが人間の気質をもっとも典型的に表現しており、天才の創造性も気質の偏りと密接な相関関係にあると解釈されている。

03

Principles of Marketing



Kotler and Armstrong (著)
 (Prentice-Hall)

(外)名図書庫 ほか

みなさん教科書というどのようなイメージをお持ちですか？文字が多く、真面目に淡々と書かれていて、初心者興味を引くようなものではなく、つまらないというイメージを持つ方が多いのではないのでしょうか？今回紹介するのは世界でトップクラスに売れているマーケティングの教科書です。約600ページの大著ですが、大きなカラー写真と、ポップな図表が多く載っており、日本の教科書とは全く違う印象を持つと思います。もちろん最新のものも含め今日までのマーケティング研究の知見が網羅されています。そして世界中の読者を対象にしているため英語は平易です。是非一度手にとって(かなり重いかから手首に注意！)読んでみてください。あなたの教科書の概念が変わるはずですよ。

04

哲学入門



バートランド ラッセル (著)
 中村 秀吉訳
 (社会思想社)1996

名図開架 133.5:R89

「哲学入門」というタイトルの書籍は多い。哲学は入門書が必要なほど入りにくい分野であるかもしれない。私は高校生の頃この本に出会って「哲学」への関心を抱くに至った。冒頭に机の話が出てくる。現に見えている机は、実はないかもしれないというのである。高校生くらいまでは、常識を身につける時代であろう。机が実はないかもしれないということになれば、信じていた世の中の全ての根拠が失われて、精神的に無根拠の宙ぶらりんな状況になってしまうのだが、これが私には愉悅であった。こういう楽しみのためには、本来D.ヒュームの著作でも挙げるべきであろうが、入門書として本書は好適であるように思う。

名古屋校舎

森 久男
 経済学部



名古屋校舎

太田 幸治
 経営学部



名古屋校舎

木島 史雄
 現代中国学部

05



パリの秘密

鹿島 茂 (著)
(中央公論新社)2006
名図開架 293.5:Ka76

著者・鹿島茂は19世紀フランスの社会生活と文学の専門家。新聞書評や雑誌のエッセーなどで、名前を知っている方も多いでしょう。本書は氏が東京新聞で2003年からの3年間に連載した「パリの秘密」を一冊にしたエッセー集です。著者があとがきで「どんな無名の通りのちっぽけな建物でも、かならず秘密がある。この秘密が、遊歩者惹きつけてやまない」と称するパリの街角の様々な秘密、たとえばそれはエッフェル塔の逆転勝利であったり、サン＝ジェルマンの犬市場であったり、オペラ座の養蜂であったり、セーヌ河岸の古本屋であったり、知らぬ人のないパリの街に秘められた、知る人ぞ知るエピソードが満載。リアルなパリの街歩きでも、はたまたGoogleストリートビューのバーチャル旅行でも、ガイドブックに一冊添えて。ひと味違ったパリの魅力を発見したいあなたに、『パリの秘密』は必携の一冊です。

名古屋校舎

塩山 正純
国際コミュニケーション学部



06



「過剰反応」社会の悪夢

榎本 博明 (著)
(角川書店)2015
豊図開架 361.4:E63

過剰反応社会をどう生きるか。現代は、ネット社会である。常識では考えられない問題が、大きく報道され、報道することで満足感を感じる少数の人のために翻弄させられる社会でもある。企業、学校、個人等が、被害を受けていることがある。「クレーマ」の心理状態、も含めて、これらの中に、これからどのような対応し、生きていくのか。

大人だけでなく子どもの社会にも影響を及ぼしている。「子どもがうるさくて、眠れない。静かにさせる」と70年前には子どもであった筈の75歳の爺さんが、幼稚園に怒鳴り込んでくる。インターネットの発達で、他人よりも個人を大切にしようとする傾向があるからこそ、子どもの成長を、いじめ、子どもの貧困等の問題から、家族は勿論、学校で、地域で、コミュニティー全体で注意深く見守っていくことが必要な時代である。

学生生活の間に、友達を尊敬し、その結果尊敬されるようなコミュニケーションを通してこれからの社会生活でどのように、自分が生きていくのかを見つめてもらいたい。

豊橋校舎

加藤 好郎
文学部



07



イタリア・ルネサンスの文化

ブルクハルト (著)
(中央公論社)初版1974
柴田治三郎訳(中公クラシックス)2002
豊図書庫 237.05:B91:1~2
(外)名図書庫 080:C68:W16 1~2
新井靖一訳(筑摩書房)2007
豊図開架 237.05:B91
車図開架 237.05:B91

(写真は柴田治三郎訳版)

ブルクハルトは、ルネサンスが「個人主義をもっとも強力に発展」させた時代とみる。本書にはその個人が具体的なエピソードを伴ってつぎつぎと現れる。最近読み返してみたところ実におもしろい。14~16世紀のイタリアの様子が活写されている。

たとえばサヴォナローラ。メディチ家が追放された後、フィレンツェで神権政治を行い、市民から没収したぜいたく品を火刑台で「犠牲焼却」した。その日はカーニバルの最終日で、仮面・仮装衣装、豪華な印刷物、婦人の化粧道具などが台に積み上げられ、焼却。その後、サヴォナローラ自身が破門、拷問、火刑に処される。この部分だけでも宗教改革直前のカトリック教会の様子、カーニバルと火祭りの関係など興味の種は尽きない。ルネサンス研究の古典的名著である。塩野七生の「神の代理人」も併せて読むことをお勧めする。

豊橋校舎

高橋 貴
地域政策学部



08



草の花

福永 武彦 (著)
(新潮社)初版1954
福永武彦全集 / 福永武彦著
新潮社、1986-1988
豊図書庫 #918.6:260:2
豊図書庫 918.6:F79:2

(写真は本扉)

昨年まで三年連続で、福永武彦関連の書籍をお薦めしてきました。今回は変えるべきかとも思いましたが、やはり福永を挙げようと思います。

本作の第二章「第一の手帳」は、刊行当時三島由紀夫が、現代の最高の美少年録と絶賛したものの。戦前の旧制高校生の、後輩の美少年への愛が描かれています。つづく「第二の手帳」は、美少年が夭折したのち、その妹との恋愛と挫折が、太平洋戦時下を舞台に描かれます。三島は第一の手帳と比べると落ちるといっていますが、私は捨てがたい味わいがあると思います。とくに終章における妹の言葉「兄は若く死にました。しかし汐見さんの心の中では、兄はいつでも生きていたのでございます」にいたる、心の奥底の、柔らかな部分をえぐるような感覚が素晴らしい。

豊橋校舎

安 智史
短期大学部



09



北斎の謎を解く

諏訪 春雄 (著)
(吉川弘文館)2001
豊図開架 721.8:Su87

葛飾北斎といえば、富嶽三十六景等で知られる江戸後期の浮世絵師である。すでに廃刊されたが、米国の写真週刊誌「ライフ」が1997年に行った、この1000年で最も重要な業績を残した人物100人というアンケートで選ばれた唯一の日本人だ。しかし、実際どのような人だったのかあまり知られていない。

この本によれば、北斎は、生涯93回も転居を重ね、金銭に無頓着で生涯貧乏暮らしをしていたという。相当に変わり者というイメージもあるが、こうした逸話から、好きなことに打ち込む、道を究めるとはどういうことが考えさせられる。彼のバックグラウンドとなっていた妙見信仰や老荘思想などにも触れているが、気軽に読める一冊である。

車道校舎

小林 俊明
法科大学院

